

1面からのつづき

北海道網走支部

北海道ブロック研修会

十月二十九日、網走観光ホテルにおいて、第五回北海道ブロック研修会が開催された。北海道は北見・網走・釧根の三支部によって構成され、それぞれ支部持ち回りで毎年開催されているが、今年度は網走を会場として開催され出席者は二十一名であった。

最初に黒澤猛協議会長より挨拶があり、日本善行会は来年八十周年を迎えるなど全国的な動きの紹介があった。今年度の研修テーマは「支部からの推薦のあり方について」と定め、それぞれ三支部からの実情について報告がなされた。共に調査委員会を開催し、審査の上

最終推薦者としては、市長町長の承認を得た上で本部へ提出している。推薦がなければ支部の活動は始まらない。しかし、その推薦は適材適賞、適時適賞で、地域住民からこぞって祝福されるものでなければならぬ。

研修の後は懇親会に移り、ここでも支部の活動を紹介しながら、懇親を深めることができた。最後には釧根の小西支部長から、ご接見の栄に浴したエピソードなどを交えて締め挨拶をいただき散会した。



大阪府吹田市支部

交通安全祈念 千羽鶴を贈呈

大阪府吹田市支部では、平成二十八年九月二八日に秋の全国交通安全運動に合わせて、吹田市西の庄町にあるアサヒビル株式会社様と、運輸部門のアサヒロジ株式会社様の自動車運行に携わる皆様の安全運転と、ひいては吹田市民の皆様の交通安全を祈念して、千羽鶴の贈呈を行いました。

当日は永田支部長以下一二名の会員が集まり、アサヒビル吹田工場長の青木様とアサヒロジ吹田支店長の山道様に千羽鶴を手渡し、お二人から交通安全への誓いの言葉をいただきました。物流拠点で、大型トラックが頻繁に出入りする



るアサヒビル工場は、明治二四年に大阪麦酒吹田醸造所として創業されて以降、吹田を代表する企業のひとつです。贈呈式終了後、工場のご厚意で工場見学と試飲会にも参加させていただきました。

愛知県支部

平成二十八年年度 秋季善行表彰伝達式

平成二十八年年度秋季善行章受賞者への伝達式を、十二月十七日(土)に名古屋市中区のローズコートホテルにおいて、名古屋市中区の中里顧問、愛知県議の石塚顧問をお迎えして開催しました。

参加できなかった受賞者へは、推薦者へ伝達され、後日推薦者より受賞者へ伝達されることになりました。

当日は、明治神宮参集殿での授賞式に参加された社会福祉にて受賞された吉村鈴夫氏も参加、吉村氏は子供のころバイオリンを習っていたが、就職されたのちはバイオリンを弾くこともなかったそう、退職後ふと子供のころにならったバイオリンを思い出され、もう一度最初から習われ現在では各施設にバイオリンで慰問されて見えます。今回伝達式で、ぜひお聞かせいただけると幸いです。



お願いし懇親会の席上でご披露いただきました。また、本年度皇太子殿下御接見に参加された、成瀬幸夫氏、近藤洋令氏より感謝の言葉が述べられました。

秋の全国交通安全運動が九月二十一日から九月三十日まで十日間実施されました。大分支部では全会員に協力の要請をし、この運動に参加しました。街頭活動日は九月二十六日午後五時から約一時間の予定です。午前中は雨で心配しましたが、午後からは曇りとなり実施する事ができました。場所は大分市の中心部にある「トキハデパート本店前」です。今日は愚図ついた天気の子いかに人出もやや少ないように

大分県大分支部

平成二十八年年度 秋の全国交通安全運動に参加

感じました。会員の皆さんは足元の悪い中、またお忙しい中二十名もの多くの方が参加して下さいました。さて、活動場所には、日本善行会大分支部の横断幕や「善は愛から勇氣から」と書かれたのぼり旗、「みんなの願い交通安全」と書かれたのぼり旗等々設置もできた時間となりました。開始は松井支部長の挨拶、「始めましょう」の合図で一斉に交通安全の声掛けが始まりました。配布物は毎回寄付して頂く「ミニの傘」です。今回も二五〇本用意して頂きました。寄付して下さいました。松井萌さんには感謝です。「ミニ傘」をも



ふる里白慢

京都府支部

京の歳時記【葵祭】

たす 糺の森の青葉が若緑に輝くころになると加茂川の水も温み、キラキラと光りはじめます。京都は葵祭の五月。平安京の悠久の絵巻物は美しい陽光をうけて御所を出ると、下鴨神社へ向かいそして上賀茂神社へと緑の比叡を東に眺めながらゆるゆる

るとすすんでいきます。見物は牛車と齋王代。牛車は漆黒の車と高貴に藤の花で飾られ「ギツシギツシ」と大きな車輪を軋ませながら、齋王代は華やかに二〇数名のお供を従え、行列の人氣を集めています。五月一日日下鴨神社と上賀茂神社の例祭「葵祭」の名で知られる「加茂祭」が新緑の京で優雅に執り行われま



りはこの葵に適しています。また、これがわざとび科に属するところから魔除けの力があるとも考えられたということでもあります。葵祭は京都の三大祭りの一つであるとともに石清水祭、奈良の春日祭とともに「三勅祭」の一つであり、民衆の手による祭でなく、国家の行事として宮中が行ってきた国祭であるというの、他の祭と違っていても、従って一段と雅やかで華麗をきわめているのでしようか。この祭の起源はまことに古く、欽明



天皇(五五五〜五八一)の時代に始まったと云われます。その頃、風雨による災害がひどく、加茂神をおまつりし、馬に鈴をつけ、人に葵桂をつけ、五穀豊穡を祈願すると、天下豊年になったという事です。貴族のまつりと雖もやはり農耕生活に根付いているようです。このようにして生まれた葵祭は平安時代に入り非常に盛んになり都の貴族を中心に行列を見物する人が多くあったとその様子が「源氏物語」にも描かれています。

善行川柳

選者 東 逸平

○裸木に 夢の花咲く 春を待ち 北海道 齊藤 勉

評／どんな夢かな 春が待ち遠しい気持ちを淡々と詠んだ。もう少し捻るといいかな。夢の花の「花」は、春の季節です。春の二重詠みになりますね。

○濃くうすく 風の息見ゆ 枯れ吹雪 静岡県 真野 和代

評／抜群の出来ばえです。ただし、俳句としてですね。風の息が見えるという表現、枯れ吹雪という言葉は凄いですね。川柳にすると、「風の息 善行の汗 雪の中」

○ちよつとだけ したことなのに ありがとう 香川県 丸野 忠義

評／素晴らしい！分かりやすく善行の心の基本を捕らえています。お見事と最大のほめ言葉を上げます。